

# えひめ 地域づくり協働体通信

今号では、大洲市河辺町在住の住民有志が連携して発足した「河辺の未来を考える会」の活動をご紹介します。同会が現在、地域活性化のために取り組んでいる「特産品開発（あまご飯の素）」と「農産物の育苗（ていれぎ栽培）」について、会長である梅木健一氏と大洲市地域おこし協力隊の小泉信二氏に取材しましたのでレポートします。皆さまの地域での活動のご参考にしていただければ幸いです。

大洲市河辺町

キーワード：特産品開発、農産物の育苗

## ★大洲市河辺町について

大洲市河辺町は、松山市から約70km、肱川の支流の一つである河辺川の上流域にあります。四方を山に囲まれ、東は内子町小田、西は肱川町、北は内子町・五十崎、南は西予市野村町にそれぞれ接していますが、肱川町を除き、いずれも山に隣接しており、それぞれの町との往来には険しい峠道を越えなければなりません。地形は急峻で、町全体の面積の8割以上は山林です。

現在の人口は、679人で、高齢化率は62%（H30.8月末）であり、県内でも有数の過疎・高齢化が進んでいる地域です。



大洲市河辺支所

## ★「河辺の未来を考える会」について教えてください！

「河辺の未来を考える会」は、2016年4月に、大洲市河辺町の地域活性化を目的に発足しました。現在のメンバーは、13人です。これまでの主な取り組みについては、「インバウンドツアー」、「小中学生向けの学習補助教室」、「町内住民向けの英会話教室」などがあり、多様な地域活性化策を自ら創出することにより、地域内で存在感が少しずつ増してきています。

特に、裏面で紹介しています「特産品開発（あまご飯の素）」や、休耕田を活用した「ていれぎの育苗」は、現在、同会が取り組んでいるメインの施策であり、県内の他地域からも注目を集めている事業です。



会議の様子

## ★今後の河辺町について

河辺町は、人口減少が著しく、幼児3人、小学生10人、中学生10人です。また、10年後の人口については、約300人、高齢化率は90%程度まで上昇することが予想されているそうです。今後も高齢者の方が、河辺町で元気に働いていただくために、地域の活性化は必要不可欠であり、同会が取り組みされている特産品の開発や農産物の育苗は、安定した収入の確保や雇用の増加につながる事業です。河辺町の自立促進に向けて、現在の事業が発展・強化されることを期待します。

## ★「特産品開発（あまご飯の素）」について

Q. アマゴをどこで養殖し、どのくらい育てているのですか？

A. 河辺川の上流地域で養殖しており、現在、6～7万匹程度、育てています。

Q. 「あまご飯の素」を発案するに至った経緯は？

A. アマゴは調理しやすく、また、競合する業者が少数だったため、取組みを始めました。

Q. 10月に米国で開催される「日本食の見本市」に当商品を出品するに至った経緯は？

A. 6次産業化プランナーからの紹介があったからです。また、アメリカ人が、川魚を食べる習慣があるため、十分PRが出来ると思ったからです。

Q. 販路拡大に向けた取り組みはどのようにしていますか？

A. メディアへの広報活動、6次産業化プランナーの方に販促して頂いています。

Q. 「あまご飯の素」に続く商品開発の予定はありますか？

A. 「キウイジャム」「シイタケ水煮」「魚（ぎょ）カツバーガー」などを検討しています。



あまご飯の素



あまご飯

## ★「ていれぎの育苗」について

Q. 「ていれぎ」はどのような野菜で、どのように食するのですか？

A. 松山市の天然記念物に指定されており、河辺町に多く自生しています。刺身の襷（つま）として食されています。

Q. 「ていれぎ」を栽培することになった経緯や、栽培するための資金などはどのようにされたのですか？

A. 地域内に多く自生していることや、松山市内の料亭などで珍重されているからです。また、活動資金は、市からの補助を得て、栽培しています。

Q. 栽培の生産体制、収穫できるまでの期間はどのくらいですか？

A. 施設内で大切に育成しており、夏は1ヶ月程度、春・秋は2ヶ月程度で収穫できます。

Q. 6次産業化（生産、加工、販売）に向けた体制づくりや、ブランド化は？

A. ていれぎを使った「おひたし」「ポタージュスープ」の試作品を作ってみました。

また、今後ブランド化できるよう栄養や効能などについても調査・研究し、販促活動も積極的に図っていく予定です。



ていれぎ

Q. 今後の展望や課題はありますか？

A. まずは、松山市内で販路拡大を図っていく予定です。また観賞用としても販売出来ないか今後検討していきます。

## ★取材後記

「河辺の未来を考える会」では、メンバー自らが様々な知恵を出し合い、地域活性化に向けて実践されています。それらはすぐに成果として現れる場合もありますが、大半は長期に渡って少しずつ芽が出てくるものばかりです。

地域づくりは、地域住民一人ひとりが、大きな地域資源として重要な役割を果たします。地域住民が自分ごととして捉え、積極的に地域にコミットしていくことが大切です。本紙でご紹介した河辺町での活性化に向けた取り組みが、愛媛県内各地域で活動されている皆さま方のご参考になれば幸いです。

この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」 Facebook

地域の活動情報の連絡先/この情報誌に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2236 E-mail: [chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp](mailto:chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp)

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail: [info@ecpr.or.jp](mailto:info@ecpr.or.jp)